

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、毎日意識して取り組めるよう、法人の理念と共に毎日の申し送り時に職員で唱和をしている。	「利用者様を第一に考えてケアをする」等、3つのホームの理念がある。申し送り時に職員で唱和をし毎日のケアに活かすように取り組んでいる。法人の理念とともにホームの入口に掲示してあり誰でもが見ることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様が近隣住民と関わりを持てるよう、日頃のウォーキングの際挨拶をしたり、納涼祭や運動会等区の行事に参加したりしている。施設の行事に地域の方に参加していただけるよう回覧板を通して広報している。	行政区に入区している。ホームで行う行事は回覧版で地域へ知らせており、地域の納涼祭にも利用者が参加し住民との交流を深めている。高校生が毎週金曜日にボランティアとして来訪し、利用者も孫のように親しくふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡谷市より委託を受け、地域住民対象の介護予防教室を行っている。認知症予防について講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催できるよう実施している。参加者、利用者様などの意見を参考にサービス向上のための取り組みを行っている。家族参加・地域住民の方の参加があまりないため、今後どう参加を促していくかが課題である。	年4回の開催を原則としている。本年度もすでに2回開催している。区長や介護相談員、広域連合職員や市職員の参加がある。平日開催しているため家族の参加が少ない状況にある。意見や要望は職員会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や介護予防教室などで、市役所の介護福祉課の方や広域連合の方に入居者の有無や利用者様の状態、ケアの取り組みなどを伝えている。	市が計画した介護予防教室の講師を引き受け、推進にも関わっている。2名の介護相談員の方が毎月2回来訪し、利用者の要望を聞き、その内容を伝えてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は、エリア全体で実施。年2回組み込まれている。	身体拘束を行わないことを原則としている。事故を心配して拘束を行うのではなく、ホームとして必要な対策を講じている。身体拘束についての研修を年2回実施している。同じ内容を数回行うので全職員が受講できる仕組みになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、エリア全体で実施。年2回組み込まれている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、未だ実施していない。2月会議にて実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約・解約等の内容を説明し、ご家族の意向を伺い、ご理解いただけるように努めている。文書にて提示し署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のつぶやきとして、小さな一言も汲み取り、申し送り時に対応策等を検討し、実施している。ご家族の意見・要望については、面会時や満足度調査アンケートから拾い申し送りや会議にて協議している。	利用者全員が自分の意思や思いを言葉で伝えられる。ふと漏らしたつぶやきを記録しておき、申し送り時に対応を検討している。家族の要望や意見は面会時に伺うようにしたり、年2回実施する満足度調査の結果を職場会議で分析・検討し、ケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時等に職員からの意見や提案を募る機会を設け、検討している。	毎月第3水曜日に職場会議を開催している。会議のテーマは2週間前に決めておき、出席できない職員からも事前に意見を聞いている。管理者との面談も年1回実施している。日常のコミュニケーションを大切に、自由に話せる雰囲気を作るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を持って、働けるように各ツールを使用したり、きらきらグラフ等を活用し、やりがいを感じることを出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた学びの機会を持つよう法人内外の研修の情報収集をし、研修参加の促進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年定期的同法人内の事業所間の交換研修を行っている。又、法人全体の職員を対象とした研修の実施により、交流の場を設けている。また、今年度より岡谷地域のGHで連絡会を発足。今後定期的に交流の場を設ける予定。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人、ご家族との面接を重ね、不安なこと、利用してからの希望すること等をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。ご家族からの相談に至った経緯、今後の希望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス利用状況を確認しながら、他のサービス機関の情報も必要に応じて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や掃除を行い、食卓にて同じ料理を味わうなどして会話の機会を多く持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から情報共有に努め、ご家族来所時には利用者様と過ごせる場所の確保と雰囲気作りに配慮している。また、全体外出や個別外出、施設内行事を通して参加を呼びかけ関係が保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣店舗への買い物や馴染みの場所・生まれ故郷などへの外出、ドライブ等を計画し実施している。また、ご家族から制限がなければ、面会も可能。	同じ市内から入居している利用者がほとんどなので、馴染みの店や場所へ行く機会が多い。個別外出レクを計画し毎月3人ずつを目安に利用者本人が希望する場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに声を掛け合い、助け合える環境を整えている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居後も必要に応じて相談援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望をゆっくりと傾聴し、実行出来るように努めている。ご自分の意思を伝えるのが難しい方には、その方の様子や表情を伺い、把握出来る様に努めている。	利用者全員が自分の思いや意向を言葉で伝えられる。利用者の思いを大切に自己決定できるように関わっている。言葉で伝えるに難しいことは態度や表情から推測し、「何でも言ってね」と声をかけている。個々の思いは個人記録に入力後プリントアウトし、業務日誌に綴じ込み職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートやプロフィール表を活用しながら、個々の生活歴等の情報を共有し日々のケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや日々の申し送りなどを通して、一人ひとりの状態・状況把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスを実施し、ご本人やご家族の意見や意向を取り入れ、介護計画を作成している。利用者様の状態変化に応じて計画書の見直しを行ったりしている。	管理者が利用者全員のアセスメントを行い、それを基に介護支援専門員が介護計画を作成している。状態に変化のない場合は6ヶ月ごとに再アセスメントをしており、状態に変化がある場合はその都度見直しをしている。家族を交えてプランの内容を検討し計画を決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力での介護記録(ポイントケア)にて、情報共有を図っている。毎日、ポイントケアにて介護計画の実施の有無について評価をしている。特記事項は業務日誌へ反映し、全職員が把握できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者様・職員との交流を図ったり行事に参加している。また、設備を活用している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一員として、諏訪湖の清掃活動や地区の行事に参加して地域住民との交流を図り、充実した生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的な定期の受診はかかりつけ医に行っている。事故等緊急受診が必要な際は、ご家族に連絡し希望の病院をお聞きして対応している。また、地域の医療機関より往診を含めた協力を得ている。	定期受診は原則としてかかりつけ医にご家族対応で受診していただいている。緊急時に受診を希望する病院をあらかじめ家族から聞いておくようにしている。市内の訪問看護ステーションと契約しており、毎週火曜日に来訪し、相談に応じていただいている。また緊急時は24時間対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に岡谷病院の訪問看護が入っており、随時連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者との連絡をこまめに取り、ご本人の状態把握と今後の方針・予定等を聞き、必要に応じて動けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態やADLに変化が見られた際には、ご家族と今後の方針を話し合い、当事業所で出来る範囲のことを説明している。また、法人内や外部施設とも連絡を取り、その方の状態にあったサービスの移行も検討している。	法人としてホームでは看取りを実施しない方針である。医療面の変化に応じて家族と今後の方針を話し合い、希望に沿うように努めている。同じ法人内に住み替えのできる施設があり、ホームでの生活が困難になると他の施設に入れるという安心感がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による定期的な救急救命法を受講している。また、定期的に会議や申し送り時に緊急時対応マニュアルの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を計画し、利用者様・職員で実行している。また、災害時の近隣住民による協力体制も整えている。	防災訓練は年2回計画している。今年度は5月に1回目を実施し、2回目は検討中である。地域の方や消防署の方をお願いしての訓練も検討している。職員による机上ミニ訓練を毎月実施し、実際の場面をイメージしやすくしている。夜間想定訓練についても今後していく予定である。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りやフロア会議等で情報を共有しながら言葉掛けや対応を検討、実施している。本人よる居室の施錠等も、状況に応じ実施している。	利用者を第一に考え、自立した生活ができるよう支援している。機能維持のために時間がかかってもできることは自分でしていただくように支援している。利用者の尊厳保持やプライバシーについての法人のエリア研修会があり、全職員が参加できるシステムになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の希望や思いを聞いた際は、つぶやきとして記入し、職員間で情報共有し、対策を立て実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや好みを大切に、ご希望をお聞きしながら、買い物やウォーキングに付き添ったり、好きな時間にお好きなことが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着る服を一緒に選んだり等個々の嗜好に合わせた身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、個々の力に応じて食事準備や片付け等に職員と一緒に家庭的な雰囲気の中で参加していただいている。また、買い物時には、希望品というものもある。	全員の方が普通食を自力摂取されている。2週間分の献立をエリアグループホーム会議にて決定し、栄養士にも確認をもらっている。利用者は個々の能力に応じて準備から片付けまでを職員と共に行っている。男性の利用者がモヤシのヒゲ取りを自分の役割と認識し積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、献立はエリアのGHで統一。栄養士にも確認して頂いている。また、毎週体重測定を行い、状態把握も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様に応じた口腔ケアを実施している。夜間は歯磨き後緑茶でのうがいを実施。義歯の方は義歯を預かり、定期的に義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔保持に努めている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にあセスメントを行い、個々に合ったオムツの見直しや、トイレ誘導の時間を検討し、トイレでの排泄という部分を大切にしている。	トイレで排泄することを大切にすべての利用者に支援している。自立の方と声掛けのみの方で半数ほどになり、その他の方には一人ひとりに合わせ支援している。布パンツにパットの方についてはトイレ誘導とともにパットの確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やウォーキング等、身体を動かす機会を多く持てるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午前・午後とお好きな時間に入浴を楽しんでいただけるよう取り組んでいる。	職員の日勤帯の時間内の範囲で利用者が希望する時間に入浴できるようにしている。自立の方がほとんどで見守り・声掛けのみを行っている。週に4～5日は入浴している。拒否される方には職員を変えて声をかけたり、作業の前に入っていたりなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休んでいただけるよう環境を整えている。又、状況に応じて休息していただくよう声かけや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後や定期薬を受け取った際、全職員が把握できるよう処方箋をファイルに挿み、確認している。服薬マニュアルを作成、確認し、適切な服薬介助に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートやプロフィール表を活用し、職員間で利用者様個々の生活歴・趣味の情報を共有し、好きなことが行えるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	偏りが無いようチェック表を元にウォーキングや食材の買い物、定期的なドライブ等の外出が出来るよう取り組んでいる。その日の希望に添っても、業務を工夫し臨機応変に対応出来るよう努めている。	三分の二の利用者は自力歩行が可能である。他の方は杖やシルバーカー、歩行器などを使用して歩行ができる。偏りなく散歩や買い物に行かれるように計画している。個別外出計画と日帰り旅行計画があり、それに沿い実践している。自力歩行が維持できるように、毎日午前・午後にリハビリ体操も実施している。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、個々の能力に応じ財布を所持していただき、買い物時などに希望品を購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や日常のやりとりでも、希望に応じ手紙等出せるよう支援している。電話についても、希望があればご家族様の了承を得た上でいつでもかけていただけるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はカレンダーや写真を飾ったり、季節の生花を置き、季節感を出している。	居間兼食堂には大きな日めくりや月ごとのカレンダーがあり、日付や曜日の確認ができるようにしている。日課の横には大きい時計が掛けてあり、日課ごとに時間を確認するようにしている。南側は広いベランダになっており日当たりが良く明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置したり、居間にて気軽に休めるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、極力ご本人の使い慣れた衣類や家具などを持参していただけるようご家族に相談している。利用者様の作品や写真なども貼り、居心地よく過ごしていただけるような工夫をしている。	ベッドは自分で好みの物を持ち込み利用している。畳ご風敷物をもち込んでテレビを見るときにそれを敷き座って見ている方がいる。入口上部には収納戸棚が備え付けられている。居室は広々としており整理整頓され清潔感が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者様の出来ることに着目したアセスメントを行い、計画書を作成し実施している。トイレの場所など分かり易いよう掲示物等で工夫している。居室にも個々に表札を作成。		